

令和元年度 前期学校評価の分析と考察

【評価項目の分析と考察】

◆成果（良い点）

- 項目4：「学校の安全」や「教育環境」については、生徒、職員、地域の評価が非常に高く、平均3.4以上の高い評価を得ており、安全性が確保され、教育環境が整っていると云えます。
- 項目5：「挨拶や言葉遣い」については、保護者、生徒の評価は高くないが、職員、地域は、高い評価となっており、昨年同時期の評価に比べ、全体平均が向上しています。特に挨拶は、生徒は「ワンストップ挨拶」をもっと積極的に行うべきとの意見が多いですが、地域では、よくできているとの好ましい評価を受けています。
- 項目8：「生徒は行事に積極的に参加している」については、保護者、生徒、職員、地域とも高い評価を得ており、全項目の中で最も高い3.6ポイントを示しています。生徒は、学校行事や地域行事に、たいへん意欲的・積極的に参加している様子がうかがえます。
- 項目17、18：授業に関しては、「グループ学習等の授業形態」や「生徒の質問への回答」などについて、生徒、職員とも高い評価となっており、学力向上に向けて好ましい授業が行われていると云えます。

◆課題（改善すべき点）

- 項目1：「学校だよりや各種通信、HPなどで学校が力を入れている内容を知っている」については、職員の評価は高いが、保護者、生徒、地域の評価は、低い結果となっています。学校の情報発信については、これまでも継続して行っていますが、今後なお一層の情報発信に努めて参ります。
 - 項目14：「朝の読書」については、全体平均が、昨年同時期の評価に比べ、0.1ポイント以上下がっています。数年来、継続している朝読書であり、完全に定着していると捉えていましたが、マンネリ化傾向にあると保護者、生徒、職員ともに感じているのかもしれませんが、読書量の増加や習慣化、学力向上のためにも、読書活動の工夫・改善をさらに進めていきたいと思えます。
 - 項目15：「学校からの配布物」については、生徒、職員は、保護者に渡していると答えているのに対し、保護者は渡していないと感じていることがわかります。保護者への配布物は、きちんと保護者へ届けるように、今後とも指導していききたいと思えます。
 - 項目16：「教師の生徒理解や授業のわかりやすさ」については、保護者の評価が平均より低くなっています。本校教師は、生徒一人ひとりの個性を理解し、寄り添う指導を心掛け、わかりやすい授業を目指して懸命に取り組んでいます。今後ともこの取組を深め、生徒の学力向上と健やかな成長に向けて努力していききたいと思えます。
 - 項目19：「教師の公平性」については、教師が思っているほど生徒や保護者の評価は高くありません。教師の言動を振り返り反省をしながら、今後の指導の改善に努めていきます。
- ◆ 総括して言えることは、生徒・保護者と教師との間に認識や意識のずれが感じられることです。そのため、今後一層、生徒・保護者と教師が、様々な情報を密に共有しながら信頼関係を深め、生徒のよりよい成長のために努力していかなければならないと感じています。

【ご意見・感想に対して】

- 行事等の連絡が遅いとのこと指摘がありました。学校行事に関しては、年度当初に「年間行事予定表」をお配りしていますが、今後は、できるだけ早めにお知らせや案内を配布していききたいと思えます。
- 学校安心メールについては、できるだけ多くの情報を発信しているつもりですが「台風や大雨に伴う登校や外出の注意」へのご指摘がありました。安心メールについては、休日や特に緊急性の高い情報について活用していますが、今後とも正確な情報を発信していききたいと思えます。
- 定期テストのテスト範囲の連絡方法について、生徒からではなく教科担任からしてほしいとのこと要望がありました。生徒の自主性や責任感を育てるための係活動ですが、不十分な点は改善しながら、教科連絡など大切な連絡は、確実に伝達できるようにしたいと思えます。
- 挨拶について、学年によって差があるとのこと指摘を受けました。学校では、生徒会を中心に「ワンストップ挨拶」（歩きながらではなく、いったん立ち止まって挨拶すること）を、全校に呼びかけ生徒全員で取り組んでいます。この取組を今後とも継続し、徹底していききたいと思えます。
- PTA行事が、小中合わせると多くて負担ですというご意見がありました。小学校やPTA本部役員等にも相談し、負担軽減を図る方法を検討していききたいと思えます。